

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000103	事業の開始年月日	平成19年4月1日	
		指定年月日	平成19年4月1日	
法人名	シニアウイル株式会社			
事業所名	ウイル汲沢ステーション			
所在地	(〒245-0061) 神奈川県横浜市戸塚区汲沢8丁目31-18-21			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年10月16日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 通い、訪問、泊りを柔軟に組み合わせたサービスを提供しています。 * 訪問サービスでは安否確認を基本とした1日数回の訪問での水分摂取量、室温の観察、食事支援、服薬確認、バイタルチェックの他、病院・買物、美容院の送迎等個別のニーズに沿った支援を行なっています。 * 通いサービスでは週2回の音楽療法士による音楽の時間をとても楽しみに来訪される利用者も多く、リハビリ体操、口腔体操、ゲーム、貼り絵、脳トレ等には職員と一緒に積極的に参加されています。 * 地域のボランティアの方々も定期的に訪問され、明るい雰囲気の中、慣れ親しんだ地域で安心して生活を継続出来るような支援を心がけています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年10月30日	評価機関 評価決定日	平成26年11月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇事業所の多機能性を活かした理念の実践 ・利用者が住み慣れた地域での生活が継続できるよう、利用者と家族の要望に沿って総合的な支援を目指し、家庭への訪問を含めサービス内容と利用時間に臨機応変に対応している。 ◇利用者や家族の安心につながる身体介護 ・重度化や終末期には事業所の協力医（往診医）や訪問看護、事業所がチームで支援しており、独居の方も自宅での生活を続けることが可能となっている。また、職員は利用者の生活歴や現状を把握し、精神的な支えにもなれるよう、事業所理念の「一人ひとりの生活を大切にする」の実践につなげている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇職員の意見を入れ、和室の事務室をバリアフリーに改装したことで、利用者の見守りやケアが行き届き、業務の改善や効率化にもつながっている。 ◇泊まりの利用が多い場合は、利用者の要望を入れて同じ宿泊室を用意したり、自宅で畳に布団敷いている利用者には和室を提供するなど、落ち着いて過ごせるように配慮している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ウイル汲沢ステーション
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	*独自の理念を掲げており、日々の申し送りや会議等を理念の実践に向けた情報共有の場としている。 *毎年昇給評価時に表に経営理念を項目に入れ本人、管理者相互で実践の成果を評価している。	・「一人ひとりの生活を大切にす る」との理念を、リビングの入口に 掲示して、スタッフ会議や毎年の評 価時には、理念に基づいたケアが行 えているか確認している。 ・職員は理念を記載したカードを携 帯し、利用者の生活歴を把握して、 理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	*近隣の商店街や美容院など利用者の馴染みの繋がりを心がけている。 *夏祭り等の事業所の行事には、近隣住民の参加があり、交流している。	・自治会に加入しており、利用者は餅つき大会等の地域の行事に職員とともに参加し、事業所の夏祭りや記念行事には近隣住民の参加もある。 ・利用者はそれぞれが行きつけの美容院に通い、近隣の馴染みの商店で職員と共に買い物を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	*民生委員や町内会の方へ認知症高齢者の生活状況を発信し、見守り、受入れ体制などの取り組みをおこなっている。 *地域のボランティアを受け入れ交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	*2ヶ月毎に開催し自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、事業者をメンバーとし、情報交換をしている。	・家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員の出席を得て、2か月ごとに開催している。 ・会議は情報交換の後、出席者からの意見や要望を受けて、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	*市、区の小規模連絡会、戸塚区ケアネージャー連絡会等へ参加し事業所の取り組み状況の情報交換をし、サービスに関する相談ができる協力関係を築いている。	・市の職員が出席する小規模多機能事業所連絡会に参加し、事業所の状況・災害対策などを意見交換し情報を得ている。 ・地域包括支援センターとは、運営推進会議への出席、利用者の紹介などを通じて連携を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	*玄関は日中施錠していない。 *車椅子の利用者は足こぎで自分で行きたい場所に移動できるなど、拘束をしないケアを実践している。	・職員は身体拘束防止について、言葉による拘束も含め、利用者の自由を阻害していないかを常に注意を払ってケアに取り組んでいる。 ・玄関は施錠しておらず、利用者は自由に外に出られるが、職員は危険のないよう見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	*身体状況や表情・会話等の様子観察、気付きを大切にしている。 *家族の言動や介護負担状況にも配慮し、職員同士の支援状況にもお互い気を配れるように注意している。 *万一虐待の状況がある場合は区役所と連携し注意を図る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	*研修や講習会の機会があれば参加を心がけている。 *利用者や家族へ随時必要な情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	*契約時はサービス内容・計画・解約等について文書を用いて利用者、家族とともに協議し説明を充分に行なっている。 *改定時等も同様に自宅訪問時に文書を用いて事前説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	*連絡ノートや送迎時に家族の意見を聴取してサービスに反映している。 *ケアマネ訪問時直接家族へ働きかけ利用者や家族が気軽に要望・意見が言える環境を整えている。	・家族の意見・要望は、送迎時やケアマネージャーの家庭訪問時に聴取して運営に反映している。 ・利用者からの要望は、日常の会話や仕草で汲み取り、サービスに反映するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	*職員の意見や提案をスタッフ会議等で聴取し支援表、業務日誌を変えて情報が確実に職員間に伝わる様改善している。 *仕事評価の面接時職員の意見、提案を聴いている。	・ 職員の意見や提案は、毎月のスタッフ会議や日々のミーティングで話し合い、できるものから実施している。職員の意見で、事務室を改装した結果、利用者の見守りやケアがより行き届きやすくなり、業務の改善や効率化につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	*キャリアパス制度を導入しており自己評価と面接を年1回実施。自己目標を設定し資格等の取得支援も積極的におこなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	*職員個々のケアの力量を把握し、研修の年間計画をたて受ける機会を確保している。 *身体介護や認知症対応の日々のケアをしながら日々トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	*市、区の小規模多機能連絡会・ケアマネジャー連絡会への参加を行い、同業者との連携作りをしている *他事業所が気軽に訪問できる働きかけを行い常時連携体制が取れるよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	*利用者の意思・意向を十分に受け取れるよう傾聴に努める。 *馴染めない方、入浴・外出が困難な方にも安心してサービス利用が行なえるよう1日数回の訪問から開始し、本人の不安解消に努める心がけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	*相談から利用開始まで電話による連絡体制を行い家族の不安解消に努めている。 *サービスに不安を持つご本人やご家族に対しては体験利用もおすすめしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	*訪問面接等により本人・家族のニーズを受け取れるよう努めている *主治医との連携、医療系サービスの導入、福祉用具貸与、配食サービス等の情報提供や提案、調整が適切に行なえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	*本人に寄り添い支え合う介護を第一とし傾聴の姿勢で臨んでいる。 *本人の気持ちを重視し意識的に声掛けができるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	*家族のできることは行なって頂き、家族の困っている部分を支援できるような関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	*馴染みの商店街のスーパーや理美容院などに職員が付き添ってでかけるなど、今までの人間関係や場所の継続に配慮している。	・利用者の生活歴を聴き、馴染みの人や場所を把握して、利用者との関係の継続を支援している。 ・馴染みのスーパー・理美容院へ職員が同行したり、送迎を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	*利用者同士の関係性を把握し、日々のレクリエーションや・配席等に気を配り職員が間に入る等の対応をしながら常に輪を大切にしていけるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	*契約終了後も家族から電話を頂いたり、直接事業所へ出向いて下さる事があり関係性が保たれている。 *入院等で終了された方もケースワーカーや主治医と連携し、退院後の継続支援を行なえるよう取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	*入所前のアセスメントや本人、家族との日常の会話を通じて本人の思いや意向を把握している。 *表出が困難な場合も表情や仕草、家族からの情報をもとに把握している。	・訪問サービスを含め、職員は利用者の日常の行動や表情から思いや意向を汲みとるように努めている。 ・会話が困難な方も、入浴時や訪問時を利用して、心を開いて貰い信頼関係を築くよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	*前任担当ケアマネジャー・家族・本人から情報を頂き、本人の暮らし方・生活環境・習慣等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	*家族との連絡ノートや直接の本人・家族との会話、通い・訪問・泊りでの日常的な様子を基に、心身状態、『できること』を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	*サービス開始時に本人、家族、関係者が参加して担当者会議を行ない、それをもとに介護計画を作成している。 *介護計画は「ライフサポートプラン」を採用している、	・サービス開始時に、本人、家族、看護師・福祉用具など関係者が参加してサービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。 ・毎月のスタッフ会議の中で、ケアプランを検討して必要な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	*本人・家族から得た情報、申し送りやミニカンファ時の情報を職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	*本人、家族の状況、状態の変化、ニーズにあわせた柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	*通院、買い物等個々のニーズに合わせた支援に取り組んでおり、地域包括職員から頂いた近隣情報を基に、馴染みの関係性を大事にしながら支援を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	*本人の従来のかかりつけ医への受診を支援し、事業所での情報を提供するなど連携を密にしている。 *通院は原則家族にお願いしているが、家族の申し出や医師からの要請時職員が付き添っている。	・従来のかかりつけ医での受診を支援しており、「連携ノート」に日々の状況を記載し医師に伝えている。 ・受診の際は基本的に家族にお願いしているが、家族の状況に応じ、又かかりつけ医からの要請時には職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	*日々のバイタルチェック・入浴時やサービス利用時等の状態で介護職員が気付いたことを看護職員へ伝えて相談し、必要に応じ受診へと繋げる支援に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	*入院時は家族と連携し、主治医・相談員との情報交換、相談ができる様関係づくりに努めている。 *自宅への復帰時に不安がある場合は退院直後より泊りを導入して、ゆっくり自宅へ戻る練習を行なっている環境作りを提案している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	*重度化や終末期に向けた指針とマニュアルを作り、全職員を対象に勉強会を行ない、事業所でできる内容と範囲を確認している。 *終末期に向けては家庭と緊密な連絡をとり主治医とも相談し対応を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期には往診医、訪問看護師、職員間のチームで相談し支援している。 ・事業所では看取りの経験があるが、今後は更に、看護師を講師に迎えて終末期ケアについての研修会を行う予定である。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	*マニュアルを作成しており全職員の緊急時の初期対応訓練としている。 *事故報告書やヒヤリハット報告書を利用しながら再発防止の検討を行ない実践力へ繋げている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	*年2回消防署員立会い、指導の元避難訓練を実施し、全職員が災害時対応ができる様にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、消防署の立ち合い指導の下、利用者も参加して避難訓練を行っている。 ・訓練時には、近隣の方にも声をかけ、大家さんの協力も得ている。 ・災害時の備蓄は、量の確保が今後の検討課題としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として、今後3日分の飲料水と食料、及び暖房用の毛布などの確保、並びに備蓄品のリスト表の整備が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	*職員は入職時プライバシー保護に関する研修を受けており、利用者への言葉掛けに注意し、個性を尊重した支援をしている。 *利用者の尊厳を損ねるような言動等は全体会議等で注意している。	・利用者の人格を尊重しプライバシーに配慮しながら、それぞれの個性や考え方により、ケースバイケースで対応している。 ・接遇などで気になる場面が見られたときは、管理者はスタッフ会議で注意を喚起している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	*本人へ「どのようにしたいですか？」の意向を伺うことを大切にしている。 *会話や表情からもサインをキャッチ、思いを引き出せるよう働きかけを行なっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	*その日の体調や様子を見ながら本人と相談し早めの帰宅やゆっくりな来所、急な泊りや訪問に随時対応が行えるように準備している。 *急な買い物や受診等もご本人やご家族の意向に添った支援が行なえている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	*理美容院や買い物支援によりその方らしい身だしなみができるよう支援している。 *洋服の選択やお化粧がゆっくりできる時間を設ける配慮を行なっている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	*ゆっくりした環境で、一人ひとりの食事のスペースを大切に支援している。 *季節感のある手作りのお菓子づくりを利用者と一緒に行なっている。	・職員の食事支援は最小限にとどめ、その方の食べるペースを大切に、ゆっくりと見守っている。 ・利用者と、ゼリーやスイートポテトなど季節感のあるお菓子作りを楽しんでいる。行事のときは特別食を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	*食事形態や量は個別対応を行い、栄養のバランスを考慮した食事の提供を行なっている。 *水分量は可能な限り必要量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	*歯ブラシセットを持参して頂き、毎食後声かけや誘導を行ない口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	*家族からの情報や排泄時間をチェックし排泄パターンを把握し、自立支援に努めている。 *他の時間帯でも、利用者の動作や表情を見逃さずに、声かけし、トイレ誘導している、	・自宅での排泄状況を家族から聞いたり、一人ひとりの排泄パターンや癖、仕草を把握して、声かけやトイレ誘導を行っている。 ・泊まりの時も、職員が時間を見てトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	*食事の内容や水分補給などの提案を適時行なうと共に、リハビリ体操などの運動を心掛けている。 *個々に主治医に相談・指示を頂き看護職員を中心に個々に応じた予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	*入浴は一人ずつ行ない職員が入浴前から終了まで見守り、快適に入浴できる様支援している。 *入浴を好まない場合は声掛けを工夫したり職員を変えて対応している。	・利用者の状況に応じて、職員2名で介助する場合もある。 ・家族と利用者の毎日の入浴希望にも柔軟に対応している。 ・入浴を拒む方には、声かけを変えたり、別の職員が対応するなど工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	*日中でも安心して休息できるような個室の利用や簡易ベッド、ソファベッドなどで休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	*家族より薬に関する情報を頂き、ファイルし職員で情報共有している *薬の管理は基本的に家族にお願いしているが、症状変化時は主治医へ相談し指示を頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	*その方に合わせた季節毎の行事、散歩、レク、会話等にお誘いし楽しみや張り合いをもって頂いている。 *家事を得意としている方にはお手伝いをお願いし役割をもって頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	*近隣の公園への散歩、初詣、花見、紅葉狩り等戸外にでかけている。 *サークル参加等の希望時も家族と協力して支援している。	・近隣の公園への日常の散歩のほか、花見や紅葉狩りなど季節に応じた外出を支援している。 ・職員訪問時に家族の意向を聞き、外出行事には家族にも参加・協力をお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	*本人の行きつけの店や希望する店での買い物や同行支援を行なっている。 *買い物の中身やレジでの支払いなどの見守りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	*通い・泊りサービス利用中でご家族へ連絡を取りたい等の希望時はご家族の了解のもと意向に添うよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	*居間の壁には手作りの作品や貼り絵カレンダーなど季節に応じた作品を展示している。 *机やテーブル、テレビの位置は利用者の希望に応じて変更して居心地よくすごして頂いている。	・職員は、窓やドアを開けて換気し、エアコンで居間の温湿度を適切に調整している。机やテーブルの位置は利用者の希望に応じて変更し、家庭的な雰囲気の中で、寛いで過ごしている。 ・壁面には、季節に応じた利用者の手作り作品を展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	*個々の関係性を把握した上で日常の配席や居室の部屋割りなど気を配っている。 *テーブル席・居室等用意しており随時声かけも行い対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	*5部屋ある宿泊室のうち、2部屋はドア続きで夫婦や家族が宿泊できるよう工夫されている。 *落ち着いて過ごせるよう、できる限り自宅と同じ様式や空間をつくる工夫を行っている。	・泊まりの回数が多い利用者には、希望を入れて同じ宿泊室を用意したり、自宅で畳に布団を敷いて休む利用者には和室を提供するなど、落ち着いて過ごせるよう配慮している。 ・室内には、写真や時計など利用者の馴染みの物品を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	*自立支援に努め必要に応じ施設内の機能（手すり、車椅子）を活かし、安全な環境整備を心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ウイル汲沢ステーション

作成日 平成26年11月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	<災害対策> 災害用の備品が、GHと共有の倉庫に備えてあるが、スペースが限られており量的にも不十分である。	地域密着型施設として、災害時近隣住民、職員家族等を含む人数のほぼ3日分の備蓄を目標とする。	<品目> 備蓄品目を見直し充実させる。 ・飲料水、パン、アルファ米、ビスケット、羊羹、缶詰、 ・ランタン、防寒・保温シート、災害用トイレ、マスク、オムツ、カセットコンロ、ボンベ他	3～6か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。